令和７年度　日本大学自主創造プロジェクト

日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

２０２５０１３

プロジェクト名　学生発！社会とつながろうプロジェクト

プロジェクトの概要

本プロジェクトのビジョンは、「人と人とのつながりを再設計し、その関係性が持続的に育つ環境を創出すること」である。
現代社会では、「話せない」「知らない」「助けを求められない」「孤独」といった問題が顕在化している。しかしこれらは個人の弱さではなく、関係性が自然に生まれる“場”が失われたことによる構造的課題であると私たちは捉えている。
本プロジェクトでは、その構造に介入するためにペット型ロボットを活用する。ペット型ロボットは単なる癒しの存在ではない。人に対する心理的ハードルを下げ、初対面同士の間に共通の話題と感情を生み出す「関係の触媒」として機能する。
ロボットを中心とした体験設計により、自然な対話、共感、再訪したくなる関係性を創出する。技術は目的ではない。人間同士が再びつながるためのインフラである。
本プロジェクトは、ロボットを通じて人と人の距離を縮め、「技術によって心を守る」社会モデルを提示する挑戦である。

プロジェクトの結果・成果

本プロジェクトでは、竜泉福祉センターまつりにて約 100〜150 名が来場し、世代横断型のロボット体験空間を創出した。子どもが 6〜7 割を占める中、高齢者層からも価格受容や導入意欲に関する前向きな発言が確認され、市場性と社会的受容の可能性を実証した。6 体同時展示により体験機会を最大化し待機時間を軽減、ロボットが媒介となり自然な対話や共感が生まれ、世代間交流が自発的に発生する様子が観察された。また、福祉施設・大学研究室・学生団体が連携する運営体制を構築し、継続的地域活動へ発展する基盤を確立。さらに、台東区、明治安田生命、東京海上日動との連携による今後のふれあいイベント開催も具体化し、大学発の地域連携モデルとして発展的展開が見込まれる。本展示は単発企画に留まらず、ロボットを活用した「社会接続モデル」の実証として意義ある成果を得た。







